

平成28年度第4回 奈良市環境基本計画推進会議の意見の概要

開催日時	平成29年2月10日（金）午前10時から11時30分まで
開催場所	奈良市役所 東棟1階 第3会議室
意見等を求める内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良市環境基本計画（改訂版）の中間見直し（案）及び第2次奈良市地球温暖化対策地域実行計画（案）について ・「奈良市環境基本計画（改訂版）」平成29年度（平成28年度実績）分野別施策評価コメント方法（案）について ・今後の予定について
参加者	出席者 6人 ・ 事務局 4人
開催形態	公開（傍聴人 0人）
担当課	環境部 環境政策課

意見等の内容の取り纏め

《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》

奈良市環境基本計画（改訂版）の中間見直し（案）及び第2次奈良市地球温暖化対策地域実行計画（案）について事務局による説明のあと、参加者に意見を求めた。

3回の奈良市環境基本計画推進会議で意見を求めた奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し素案及び第2次奈良市地球温暖化対策地域実行計画素案について、11月に環境審議会にて審議したのち、12月にパブリックコメントを実施した。

パブリックコメントの結果について、平成28年12月5日から28日までの間、「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し素案」及び「第2次奈良市地球温暖化対策地域実行計画素案」を公表し、素案に対する意見を募集した。その結果、20件の意見が提出された。

意見の概要と市の考え方については、資料1に記載している。

次に、パブリックコメントでの意見を反映し変更した主な点について説明する。

まず、資料2「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し（案）」について、15ページに示している分野別将来像の記載内容について、16ページ以降の分野別施策の展開で記載されている施策名と一致していないとの意見から15ページの分野別将来像欄に分野名を追記している。

次に、16ページ以降に記載している参考となる指標について、当初計画時点から中間見直し時点までの進捗状況がわかるよう当初計画の現状値と中間見直しでの現状値を併記するべきではないかとの意見から、参考となる指標の表中に当初計画時点の現状値を策定時とし、中間見直し時点の現状値と併記している。

次に、57ページ以降に資料編を追加しており、本市の概況、環境に関するアンケート調査結果の抜粋、

計画の中間見直しの経過、奈良市環境審議会委員名簿、奈良市環境基本計画推進会議・奈良市環境教育推進会議参加者名簿及び用語解説を掲載している。

次に、資料 3「第 2 次奈良市地球温暖化対策地域実行計画（案）」について、計画のタイトルについては、奈良市環境審議会にて、「どれが一番新しい計画なのかがわかるように第 2 次奈良市地球温暖化対策地域実行計画としてはどうか」とのご意見から、第 2 次奈良市地球温暖化対策地域実行計画としている。

次に、23 ページの削減目標に向けての削減量の推移について、2020 年度時点の削減量が記載されていないとの意見から、削減目標を定めていない 2020 年度時点の削減見込量の棒グラフを削除した。

次に、施策・対策での削減量について、分野ごと、施策ごとにどれだけ削減していくのか記載するべきとの意見から、25 ページから 30 ページにかけて、部門ごとに削減量を記載している。

次に、24 ページの地球温暖化への対策について、大きく分けて「緩和策」と「適応策」の 2 つがあると記載しているが、「適応策」については、31 ページに書かれているが、「緩和策」については書かれていないとの意見から、25 ページの冒頭に「緩和策」について、記載している。

○質疑・意見の要旨

- ・パブリックコメントの意見に関して、市民に意識があるのか。20 件の意見についてどのように評価しているのか。また、中学生アンケートの回収率についてはどのくらいか。
- パブリックコメントは、最近実施した新斎苑に関するものであれば何十件となされている。20 件という数字だけでみれば少なく思うかもしれないが、件数ではなく、参考となる指標について当初計画の現状値と中間見直しでの現状値を併記するべきではないかといった意見や、計画全体についての意見等、内容についてはふみ込んだものが多いと感じている。議会でもパブリックコメントの件数が少ないとの意見もあり、よりパブリックコメントの件数が増えるよう工夫を強化してきている。
- また、件数がもう少し増え、いろいろな方面から意見があれば良いとも感じている。
- 中学生アンケートの回収率については、200 人の生徒を対象に実施し、140 人から回答があった。
- ・パブリックコメントの件数が増えるよう工夫した点は何か。また、奈良市環境基本計画（改訂版）の中間見直し（案）の環境教育プロジェクトにも「市民アンケート調査結果から、市民の環境教育に対する意識は、満足度だけではなく重要度も低いことから、市民の関心を高め、意識を向上していくことが求められています。」という文言がある。数の多い少ないもあるが、次をどのように進めていくのか決めておくべきではないか。
- パブリックコメントの実施にあたっては、ホームページでの募集や、庁内では意見募集の窓口となっている総務課へ庁舎入口から誘導できるよう案内を強化している。しみんだよりへの掲載については原稿の締め切りの都合上、間に合わなかったため掲載していない。
- ・アンケートの回収状況については、奈良市環境基本計画（改訂版）の中間見直し（案）の資料編に記載しておくべきである。
- ・20 件の意見の中で気付かなかった新しい視点など何かあったか。
- ・パブリックコメントの意見を提出した人はどのような人が多かったのか。
- 庁内で意見募集について呼びかけを依頼した。その口コミの効果がなかったのではないかとと思われる。
- ・パブリックコメントについては、一般の人が簡単に書きやすい工夫をしてほしい。

- ・奈良市環境基本計画（改訂版）の中間見直し（案）に対して意見として文章を書くのは難しい。項目ごとに書けると良い。
 - ・意見を書くにあたっては、行政に対する当事者度合いによる。旅館組合に属していなければ、このような場に来ることも、環境に関する体系的な計画があることも知ることがなかなかできない。市民の皆さんが一番見るものといえばしみんだよりであると思う。しみんだよりにアンケートをはさみこんで配布する等ができるが良い。
 - ・奈良市環境基本計画（改訂版）が浸透している前提ではなく、浸透するような取組を進めることができると良い。
 - ・アンケートの回収率を奈良市環境基本計画（改訂版）の中間見直し（案）の資料編に入れる意見は良いと思う。
 - ・市として環境に焦点を当てた計画があることは良い。浸透させていくためには、パブリックコメントをかみくだき、知っていただくというアンケートの様な取組が良い。
 - ・パブリックコメント以外のもので、何か市民の皆さんに目に入るようなものがあると良い。
 - ・今回の計画の見直しについては、温室効果ガス排出量の削減に関する目標が注目点である。国よりも高い目標を定めていること、国と比較し民生部門からの温室効果ガス排出量が多いこと、これから何をしていけないといけないか等、市民の皆さんに知らせていかななくてはならない。
- 温室効果ガスの削減量については、パブリックコメントにもあるように、将来推計と削減目標との差異をどのように削減するのかといった意見を参考に、第2次奈良市地球温暖化対策地域実行計画（案）にも各分野での削減目標を入れている。具体的な取組のためには、よりふみ込んだ施策を具体化していかななくてはならないと考えている。
- ・中期目標である基準年度比 30%の削減は我慢すれば達成できるかもしれない。しかし、長期目標である基準年度比 80%の削減は大々的なことをしないと達成できない。中期目標、長期目標のそれぞれに向かって何をどうするといったことを入れないとわからない。市民の皆さんも少なからず節電や省エネといった取組をしている。民生部門ではどのような取組を進め、一人ひとりに対し、どのような取組をしていくのかがわかるようにしないといけない。
 - ・化石燃料を一番使っているのは電力会社である。デンマークのように風力発電など環境に配慮した発電で電力をまかなえるよう電力会社にも頑張ってもらえれば温室効果ガス排出削減につながる。
 - ・第2次奈良市地球温暖化対策地域実行計画（案）でこれから取り組んでいくことで情報発信、啓発があるが市としてはホームページが中心になると思うが、どのように考えているのか。コージェネレーション、潜熱回収型給湯器等の資料はたくさん持っている。
- ホームページが中心になるが、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき設置している奈良市地球温暖化対策地域協議会でのプロジェクトでは、地域の学生とのコラボ活動もしている。メディアも活用して取り組んでいきたいと考えている。
- ・ホームページ以外ではSNSなどもあるが、学生はどのように活動しているのか。
 - ・ホームページで具体的な取組をクリックすると、取組内容が見られ、取扱事業者が出ると良い。
- 学生はツイッターなどで活動内容の報告や告知をしている。市のホームページではトップページには企業を入れることは難しいと思うが、課のページでは特定の企業に限らなければ可能ではないかと考えられる。
- ・特定の企業のページにリンクすることは難しいと思うが、事業者の集まりである協会のページ等にリン

クすれば良いのではないか。そこであれば事業者の一覧もある。

次に、「奈良市環境基本計画（改訂版）」平成 29 年度（平成 28 年度実績）分野別施策評価コメント方法（案）について、事務局による説明のあと、参加者に意見を求めた。

平成 29 年度（平成 28 年度実績）の評価コメントシート（案）については、これまで各指標について評価コメントシートを記載していたが、奈良市環境基本計画推進会議でも意見があったように、より広く横断的にコメントができるよう、施策全体に関してのコメントを記載できる方法を検討していきたいと考えている。

まず、平成 29 年度（平成 28 年度実績）の評価コメントシート（案）の一つ目として、これまでの評価コメントシートの作成と合わせて、横断的なコメントが出来るよう全ての指標に対する総括用のコメントシートを追加する方法を検討している。

次に、二つ目として、これまでの評価コメントシートに記載していた指標ごとのコメントは削除し、横断的なコメントが出来るよう分野ごとにコメントを記載する方法を検討している。

奈良市環境基本計画推進会議での意見を参考に平成 29 年度（平成 28 年度実績）の評価コメントシートを作成していきたいと考えている。

○質疑・意見の要旨

- ・奈良市環境審議会で報告する際には、点数にスポットが当たりがちだが、点数については施策担当課で自己評価していただく際に機械的に算出できるため、点数よりもコメントにスポットを当て、奈良市環境基本計画推進会議の意見を奈良市環境審議会や施策担当課に届けたいと考えている。また、施策担当課からのアクションの反応も見られると良い。
 - ・専門としていない分野について、専門としている担当課への評価コメントは難しい。意見を出し合い、まとめるに当たって、議論の経過がわかるようにまとめられると良い。
 - ・奈良市環境審議会でも意見があったように、評価コメントの取りまとめ経過がわかるようにという点にも注目したい。
 - ・平成 29 年度（平成 28 年度実績）の評価コメントシート（案）の 2 案について、両極端な印象を受けたがそれぞれのねらいは何か。
- これまでの奈良市環境基本計画推進会議での意見を参考にねらいを絞って提案させていただいている。一つ目については、参考となる指標を横断するようなコメントが書けるようにこれまでの評価コメントシートに新たなものを加えている。二つ目については、専門としていない分野への評価コメントが難しいという点の改善をねらい、これまでの評価コメント欄を削除し、分野ごとにコメントを記載する方法としている。
- ・評価コメントが難しいという点については、立ち位置の問題であると思う。奈良市環境基本計画推進会議での評価コメントとして、一般市民目線で書くのか、専門家として書くのかによるのではないか。
 - ・一般市民目線でとなると少し無責任にならないかとの懸念がある。
 - ・施策担当課にこれまで作成依頼している自己評価はどのように実施するのか。
- これまでと変わらず、分野ごとではなく、指標ごとに作成を依頼する。

- ・奈良市環境基本計画推進会議として、奈良市環境基本計画（改訂版）が進むよう PDCA サイクルをまわすために評価コメントをしている。
- ・施策担当課との相互交流をどのようにしていくかという点もあるが、奈良市環境審議会では、議論の経過を見てほしい。奈良市環境基本計画推進会議としては、点数の議論に収れんしないようにしていきたい。
- ・シートについてはどのようにしていくのか、2案のどちらかにしても良いし、良いところをあわせて三つ目の案を検討しても良いのではないかと。
- ・施策担当課の自己評価にある現状分析を参照しているのは、鵜呑みにしているのではなく、専門としていない分野についてはわからないからである。自己評価の中で将来的にどうするのかまでわかるようになるとう良い。
- ・様々な分野があるが、今はどの分野に注力するのか、次年度の予算編成時期に奈良市環境基本計画推進会議として意見ができるとう良い。
- ・自己評価と評価コメントを対比できるシートとなると案1になるのではないかと。シートには、事業報告と今後どのように進めていくのかという二つの役割がある。
- ・シートについては、今後取りまとめ方法等も検討していきたい。

⇒「奈良市環境基本計画（改訂版）」平成29年度（平成28年度実績）分野別施策評価コメント方法については、これまでの評価コメントシートの作成と合わせて、横断的なコメントが出来るよう全ての指標に対する総括用のコメントシートを追加する方法で進めることとした。

次に、今後の予定について、事務局より説明があった。

奈良市環境基本計画推進会議でのご意見をふまえ奈良市環境基本計画（改訂版）の中間見直し（案）及び第2次奈良市地球温暖化対策地域実行計画（案）を、奈良市環境審議会で審議いただく。

今年度の会議については、今回で最後と考えている。